

三条市子ども・若者総合サポートシステムの今後の進め方について

機関・団体名	「三条市子ども・若者総合サポートシステム」についてのご意見	回 答
三条市 小学校長会	1 実務者会議（4つの部会）の具体的な実践計画がこれからさらに必要であると考えます。情報交換に終わらせることなく実質的な行動計画づくりをお願いしたいと考えています。 2 学校教育の関係においては、いろいろな情報が小中学校間（進学先を中心に）で共有する活動を行っています。それとこのシステムでの情報交換や共有化とその情報の内容を明確にしたり、各関係団体との連携の在り方、中核となっていて取りまとめやとりつぎを行う部署の明確化が必要と考えます。	1 実務者会議については、各部会の所管する問題についての実態を踏まえながら、会議で取り上げる内容や取り組みを計画していく必要があると考えております。 具体的な検討内容については、今年度、あるいは今後の実務者会議の中で検討し、計画していきますが、実務担当者のスキル向上や具体的な事例の検討結果など、支援の質の充実につながる取組を中心に計画してまいります。 2 総合サポートシステムで取り扱う個人情報については、可能な限り子育て支援課が集約・一元化してまいります。 そして、進学や転校などにより支援機関が変更になるなど、支援が途切れるおそれがある際には、子育て支援課がハブ組織となり、支援情報の橋渡しや体制の再構築を行ってまいります。 これまで行ってこられた、小中学校間など関係機関間の情報の共有化や連携を補完するものとしてこのサポートシステムがあるとうご理解いただきたいと思います。 情報の取りまとめやとりつぎ部署の明確化については、マニュアルの 28 ページから 32 ページに「事案別、関係機関支援フロー」に各機関の役割・機能を掲載しております。ただ、これは一般化したものですので、実務者会議の中でご意見をいただきながらより具体的なものに修正してまいりたいと考えております。 また、全ての案件がこのフロー図のとおりではないと思います。個別の案件については、個別ケース検討会議等の機会を通じて関係機関の連携や役割の確認をしていくことが必要と考えております。

機関・団体名	「三条市子ども・若者総合サポートシステム」についてのご意見	回 答
三条市 手をつなぐ 育成会	1 障害者自立支援協議会との横串的連携の位置づけはどうか。 2 知的障がい者の「新潟手をつなぐ育成会」で試行している生活記録ノート（QOL）「障がいのある本人とその家族が社会の適切な支援を得て「生命、生活、生涯の質」を向上させることに繋げるノート」との健全者とのかかわりの内容も検討必要ではないか。	1 子ども・若者総合サポート会議では、個別案件により、個別ケース検討会議で、各相談支援事業所から参加いただくことが必要な場合があると考えております。 2 県の障害福祉課及び教育委員会義務教育課で作成している「相談支援ファイル」がありますが、三条市の「すまいるファイル」は、この中の「個別支援計画」をそのまま使わせていただいております。 「新潟手をつなぐ育成会」で試行している生活記録ノートの内容については、別の会議でご検討いただくものと考えております。
三条地域 若者 サポート ステーション	市内中学校の不登校生、高校中退者等に対して積極的にアウトリーチを行い、サポステへ誘導を図り、ニート、ひきこもり状態の長期化を防ぎ、子ども・若者の自立と就労に向けた総合的な取り組みを行いたいと考えています。	ニート、ひきこもりへの対応については、相談窓口での対応だけでなく、より積極的なアプローチが必要と考えております。 今年度三条市で取組ました内閣府モデル事業は、相談関係機関の担当者の資質向上を目的としたものでしたが、平成 22 年度のモデル事業ではこれに加えて、アウトリーチに係る内容も検討されているとのことです。三条市といたしましても是非このモデル事業に取り組んでまいりたいと考えております。 若者サポートステーションさんがいち早くアウトリーチの活動を開始され大変ありがたく思っております。 総合サポートシステムを構築してから初めての春を迎えているわけであり、中学校等からの情報の引き継ぎをしっかりと行い、次の支援につなげていけるよう努めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。